

映画「オーバー・フェンス」の撮影で使用

ものづくり技能 みっちり

ポリテクセンター函館を訪ねて

函館出身の作家佐藤泰志(1949〜90年)原作の映画「オーバー・フェンス」が9月から全国で公開されている。故郷の函館に戻って職業訓練校に通う男(オダギリジョー)が、地元の女性(蒼井優)や訓練校生(松田翔太、満島真之介ら)との出会いを通して、生きる希望や人間らしさを取り戻す姿を描く。昨夏、撮影が行われた北海道職業能力開発促進センター函館訓練センター(ポリテクセンター函館、函館市日吉町3)を訪れた。

(堺麻那)

ポリテクセンター函館は、再就職を目指す人を対象に、ものづくり技能や知識習得のための6カ月の訓練を行っている。入所のための試験は年4回。「CAD(製図システム)オペレーション科」「ビル管理技術科」「住宅リフォーム技術科」「ビジネスマン技術科」「生産電気システム科」の五つの科がある。現在は全体で約100人が通っている。

映画のロケは昨年6月末から約2週間ほどかけて行われ、講師たちが住宅の骨組みを解体し、柱や梁の構造を学んで

受講生多様 希望の職 就けるよう支援

訪れた日は、作業服姿の受講生たちが住宅の骨組みを解体し、柱や梁の構造を学んで

宇野嘉人指導員の指示を受け、手際よく作業を進めていた。映画撮影の際、宇野さんは、訓練作業を演じるオダギリさん

上出千尋さん(29)は「何か資格を取りたい。おばあちゃんの家のリフォームに技術を生かしたい」と笑顔を見せた。映画の冒頭では、同センターの喫煙所が登場する。次はここをのぞいてみた。

休み時間のチャイムが鳴り、受講生が集まってきた。休み時間はどの科も一緒にいるので、けっこう混雑するらしい。「映画で描かれた情景のように、ここで一服しながら話をする人も多いですね」と徳田課長。白い煙の中で受講生の笑い声が響く。

入ったからにはしっかりと技術を身につけたいという受講生が多く、受講生の就職率はどの科も8割以上という。ポリテクセンター函館の矢吹美裕・訓練センター長は佐藤泰志さんの原作は、函館の職業訓練校で過ごした35年前の日々が元になっており、映画で描かれた訓練の様子は実際とはかなり異なっています。現在は、受講生の多様性を理解した上で、希望する仕事に就けるようサポートしています」と話す。

ポリテクセンター函館の見学は随時、受け付けている。問い合わせはポリテクセンター函館 ☎01338・52・03233へ。



映画に登場する住宅リフォーム技術科の実習所。作業着姿の受講生がてきぱきと作業する



実習所で梁を加工する受講生



住宅リフォームに欠かせない受講生の工具箱



喫煙所で一服する受講生たち



地域情報版

第5579号

北海道新聞函館支社

情報提供は ☎ 0138-32-5193
フリーFAX 0120-324-072
有料広告は ☎ 0138-32-5124

みなみ風 写真提供

☎0138・32・5118



写真は原則、写っている方ご家族に限り実費で販売します。お近くの道新販売店でも受け付け致します。

みなみ風